

社会福祉法人 関市社会福祉協議会

令和3年度

事業報告書(案)



目次

1. 事業報告全般	3
(1) 年度総括	3
(2) 重点施策	4
① 地域福祉活動計画の策定と着実な推進	4
② コミュニティーソーシャルワーカー（CSW）による支部社協および地域支援	4
③ 権利擁護事業の推進	4
④ 生活困窮者自立支援事業の実施	5
⑤ 介護保険事業の推進	5
(3) 会員・募金・寄附金	6
① 会費納入実績（6月～3月）	6
② 共同募金への協力	6
③ 寄付金・物品預託	6
2. 法人運営 会務の運営	7
(1) 社協会費による事業	7
① 理事会・評議員会・部会・正副会長会・評議員選任・解任委員会の開催	7
② 役職員等研修事業	7
③ 支部社協活動費助成事業	7
④ 福祉学習推進事業	8
⑤ ボランティアセンター事業	9
⑥ 各種団体育成事業	10
(2) 共同募金配分金	10
① 社協だより ささえ愛の発行	10
② 歳末たすけあい配分金	10
3. 補助金・受託金事業	10
(1) 関市の補助金による事業	10
① 関市民健康福祉大会	10
② 障がい児・者のつどい事業	10
③ ふれあい・いきいきサロン事業	10
(2) 関市の指定管理・受託事業	11
① ボランティア養成講座	11
② 生活困窮者自立支援事業（自立相談支援事業、家計改善支援事業、就労準備支援事業）	11
③ 多機関の協働による包括的支援体制構築事業	12
④ 地域における生活困窮者支援等のための共助の基盤づくり事業	12

⑤ 地域に様々な相談の受け止め・地域づくり事業（新規）	1 2
⑥ 参加支援事業（新規）	1 3
⑦ 介護者支援事業	1 3
⑧ 老人福祉センター事業	1 3
⑨ 介護予防ロコトレ事業	1 3
⑩ 移動支援事業	1 4
⑪ 関市中央第1地域包括支援センター事業	1 4
⑫ 身近な相談支援事業	1 5
⑬ 障がい者サロン事業	1 5
⑭ 新型コロナウイルス感染症生活困窮者支援相談事業	1 5
(3) 県社協の補助金・受託金事業および自主事業	1 5
① 日常生活自立支援事業	1 5
② 成年後見制度利用促進事業	1 5
③ 生活福祉資金貸付事業	1 5
④ コロナ特例貸付事務	1 5
⑤ 法人後見センター事業	1 6
⑥ 生活困窮者支援金事業	1 6
4. 介護保険・障害福祉サービス事業	1 6
(1) 居宅介護支援事業（居宅介護サービス計画の作成）	1 6
(2) 訪問介護事業	1 6
(3) 障害者福祉サービス事業	1 7
(4) 介護・福祉相談	1 7

令和3年度 社会福祉法人関市社会福祉協議会 事業報告

1. 事業報告全般

(1) 年度総括

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の大流行から2年が経過しましたが、変異株の出現により収束が見通せず、人と人とのつながりを創る活動において消極的な状況が続き、多くの計画や事業が引き続き中止や自粛を余儀なくされるなど、地域福祉活動に多大な影響がありました。また、コロナによる休業や失業などが原因で生活困窮者の増加、孤立問題の深刻化など複雑な生活課題や福祉課題が顕在化するところとなりました。この厳しい状況をどう乗り越え、今までの生活をどう取り戻すかについて、社協を含めた福祉関係者による有効的な支援の取り組みが求められる1年となりました。

こうした中、関市社協は、これまでとは異なる地域福祉活動を推進するために、行政、自治会、民生委員・児童委員、包括支援センターなど多様な関係機関・団体等と連携のもと、住民同士のつながりや支え合いを絶やさないために事業・活動の再開に向けて取り組みました。特に地域診断データや社協が実施したアンケート結果をもとに、地域ふくし懇談会において生活・福祉課題の洗い出しを行い、事業・活動の再開に向けて具体的な体制整備が全16支部において始めました。また、多様な課題に直面している人をいかに早期に把握し、適切な支援につなげるために、くらしまるごと支援センターが相談機関の中心となり相談を受け止め関係機関へつなげる支援を行いました。

権利擁護事業では、認知症、知的障がい等、判断能力の低下によって財産の管理や日常生活に支障がある人を支えるために、日常生活自立支援事業と成年後見に関する事業を一体的に展開し、法人後見センター事業では新たに7人（計17人）を受任し権利擁護事業に取り組みました。

関市社協は、コロナ禍における福祉活動を推進し、つながりを絶やさず、ともに生きる豊かな地域社会の実現をめざして、地域の様々な社会資源と連携した地域づくりを推進しました。

(2) 重点施策

①地域福祉活動計画の着実な推進

地域福祉活動計画の基本目標を達成に向けて、特に包括的な支援および住民主体による地域づくりに取り組んだ。令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の「つながる」取組みが中止あるいは延期となり、一部の活動は再開したものの、通いの場の多くが休止になるなど、地域福祉活動が消極的にならざるを得ない状況であった。しかし、CSWが支部社協や関係機関と連携し、コロナ禍での小地域福祉活動地域再開に向けて取り組んだ。また、計画の進捗状況を確認する「事業企画・評価シート」は、単年度の評価指標を明確にし地域福祉活動の着実な推進に向けて取り組んだ。

②コミュニティソーシャルワーカー（CSW）による支部社協および地域支援

6人のCSWが、地域住民や支部社協、その他の関係機関等と連携・協働し、地域課題の把握や課題解決に向けた仕組みづくりに取り組んだ。また、コロナ禍で地域福祉活動ができない支部社協への働きかけや、特に令和4年度から変わる支部社協助成金に合わせて、各支部が特色ある地域福祉活動ができるように支援を行った。その他、個別支援として生活なんでも相談の窓口として対応を行った。

●支部社協支援

地域診断データおよび地域づくりアンケートの結果をもとに、地域課題の洗い出しや課題解決に向けた取り組みについて話し合う場として全16支部において地域ふくし懇談会を開催した。

その他、支部社協運営やサロンの開催支援、研修会の開催等の支援を随時行った。

●CSWによる地域支援

地域	主な支援内容
第1地域（安桜・倉知）	小地域における支え合いの仕組みづくり
第2地域（旭ヶ丘・下有知）	認知症でも買い物しやすいまちづくり
第3地域（瀬尻・広見・千疋・小金田・保戸島）	小地域における支え合いの仕組みづくり
第4地域（富岡・田原・桜ヶ丘）	生活支援活動についての打合せ会議
西地域（洞戸・板取・武芸川）	地域課題解決に向けた事業展開の検討
東地域（富野・武儀・上之保）	地域課題解決に向けた話し合いの場づくり

③権利擁護事業の推進

認知症高齢者や知的障がい者、精神障がい者など判断能力が十分でない方を対象に、日常生活自立支援事業と法人後見センター事業に取り組んだ。日常生活自立支援事業では、46人の利用者への相談対応、同行支援を行った。法人後見センター事業では、新たに後見5人、保佐2人を受任し、利用者の身上監護や財産管理の支援を行い、虐待や消費者被害、セルフネグレクト等の権利侵害を防ぐ支援を行った。また、受任するにあたり法人後見事業運営委員会を開催し、受任の適否の審査を行った。

●法人後見事業報酬付与：13件 3,212,000円 ●法人後見事業運営委員会開催状況：5回/年

●受任者17人【類型：後見・13人、保佐・4人】（新規7人・死亡2人）

④生活困窮者自立支援事業の実施

自立相談支援事業、家計改善支援事業、就労準備支援事業を一体的に実施することで相談者が抱える課題に対して多面的に支援した。ひきこもり支援を強化するため専門機関と連携し体制強化と相談員のスキルアップを図った。

コロナ禍における失業・休業等の増加に伴い、就労や家計等に課題を抱える世帯の相談が急増したため、住居確保給付金や貸付等の制度を活用し自立を支援した。

●相談窓口の設置

新型コロナウイルス感染症の影響により休業や失業で生活福祉資金貸付制度の利用が増加していることから、生活福祉資金制度の利用者に対し、チラシを配付することにより、ピンポイントで生活困窮者の掘り起こしを行った。

●就労への準備が必要な方への支援

生活困窮者等で複合的な課題を抱え、一般就労に向けた準備が整っていない方や、求職活動が長期化するなどして社会的に孤立し、就労意欲が低下している方に対して職場見学や職場体験の支援を行った。

●ひきこもりに関する支援

ひきこもり支援体制の強化に向け地域活動支援センター「かざぐるま」や岐阜県ひきこもり支援センター等の専門機関と連携し、アプローチの手法および支援方法について専門的なアドバイスや同行支援を受けた。

ひきこもり支援対象者の居場所として「わたぐも」を定期開催した。その企画の一つとして「コミュニケーション講座」の開催や参加者の趣味を生かした山登りイベント等を実施した。

⑤介護保険事業の推進

令和3年度から令和5年度までの3か年のわかき介護ステーション経営改善計画の1年目として、各種研修会の実施、外部研修への参加など計画的に研修を重ねて、職員のスキルアップを図り、良質なサービス提供による選ばれる事業所づくり、地域から信頼される事業所づくりに努めた。

●人材の確保と育成

主任介護支援専門員の資格を新たに2人が取得し、令和4年度からの特定事業所加算取得に繋がった。また、非常勤ヘルパー2人を増員し体制強化と、職員の研修を毎月実施し人材確保と育成を行った。

●地域福祉部門との連携

ケース検討研修（職員研修）に参加し、日常生活自立支援事業や生活福祉資金貸付事業等の相談事業を理解し、社協が実施する介護保険事業所として役割を学び地域福祉部門との連携を深めた。

●わかかさ介護ステーション決算状況の比較

居宅介護支援事業

(単位：円)

	R2 年度	R3 年度	対前年度差額
収入金額	33,299,490	37,214,171	3,914,681
支出金額	38,859,213	35,382,451	-3,476,762
収支差額	-5,559,723	1,831,720	

訪問介護事業

(単位：円)

	R2 年度	R3 年度	対前年度差額
収入金額	13,603,949	12,213,410	-1,390,539
支出金額	15,598,625	13,249,211	-2,349,414
収支差額	-1,994,676	-1,035,801	

障害者自立支援事業

(単位：円)

	R2 年度	R3 年度	対前年度差額
収入金額	6,339,243	7,115,055	775,812
支出金額	4,666,726	8,066,636	3,399,910
収支差額	1,672,517	-951,581	

(3) 会員・募金・寄附金

①会費納入実績 (6月～3月)

合計会員数 **22,807件** 会費実績額 **20,243,550円**

(前年度対比 -64件・+30,550円)

今年度は6月(R2は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため7月)から各自治会への会員加入と会費の納入依頼を行った。

- 一 般 22,268件 17,625,550円
- 会社事業所 531件 2,568,000円
- 施設 8件 50,000円

②共同募金への協力

募金実績額 **14,450,538円**

例年と同様に10月～12月の間、赤い羽根共同募金の運動を行った。(前年度対比+28,394円)

③寄付金・物品預託 現金預託：**19件 1,690,012円** 物品預託：**75件**

(前年度対比+5件・+1,103,012円・+20件)

現金預託のうち、年末年始の事業に役立つよう100万円の指定寄付があった。また、物品預託は生活困窮者支援として食料品等の寄付が多くあった。

2. 法人運営 会務の運営

(1) 社協会費による事業

① 理事会・評議員会・部会・正副会長会・評議員選任解任委員会の開催

- 理事会 年間 6 回開催
- 評議員会 年間 3 回開催
- 総務・地域福祉部会 年間 1 回開催
- 事業経営部会 年間 1 回開催
- 正副会長会 年間 3 回開催
- 評議員選任・解任委員会の開催 年間 1 回開催

② 職員研修事業

- 職員研修 年間 12 回
生活困窮や就労の不安定、精神障害や引きこもり問題など、生活課題の多様化、複雑化に伴い、相談援助も難しくなってきたことを受けて、臼井潤一郎アドバイザーを講師にスキルアップのためのケース検討研修を実施した。

③ 支部社協活動費助成事業 助成金額 16,871,620円

(前年度対比+2,529,290円)

○ 小地域の「見守りネットワーク」活動の強化事業..... 742,000円
(前年度対比+61,000円)

○ 支部社協だよりの発行..... 14支部 24回発行 820,831円
(前年度対比+12回・+365,030円)

身近な地域の福祉事情や住民による福祉活動に関する情報の発信と、支部社協への関心と活動への積極的な参加・協力を得るために発行した。

○ 配食・会食サービスの提供..... 162回 延7,130食 3,369,638円
(前年度対比+81回・+3,359食・+1,949,806円)

独居高齢者等を対象に、新型コロナウイルスの感染に注意しながら弁当を手作りしたり、業者に注文した弁当を配食した。助成額は昨年から引き続き1食500円(通常は300円)にして業者の弁当でも対応できるように実施した。

○ ふれあい・いきいきサロン事業..... 46会場 256回 延4,289人 719,839円
(前年度対比+3会場・+92回・+2,092人・+281,497円)

15支部社協が、新型コロナウイルス感染症対策を行い開催した。

○ 友愛訪問事業..... 22回 延1,974人 1,059,744円
(前年度対比+6回・+598人・+262,040円)

高齢者、要介護者、介護者等を対象に、15支部の支部社協役員等がお見舞い訪問を行った。

○支部社協運営の支援.....10,003,234円
(前年度対比+100,207円)

全ての支部社協の体制整備や円滑な運営を進めるための支援を行った。

○支部社協連絡会の開催.....隔月定例6回開催
支部長連絡会を開催し、支部長とCSWが支部間の情報交換を行い連携を図った。

○子育て支援活動(すくすくランド).....26回 延433組 79,958円
(前年度対比+14回・+282組・+41,298円)

5支部社協が、子育て支援活動を展開した。

○地域ふくし懇談会の開催.....16支部23回 76,376円

新型コロナウイルス感染防止を徹底し、各支部で少人数で開催するなど工夫をし、各地域の福祉課題の洗い出し等をテーマに開催した。

メニュー外の助成

○おせち料理配膳事業.....976食 [1食 1,500円] 1,464,000円
(前年度対比+24食)

ひとりで年末・年始を過ごす高齢者(73歳以上)を対象に、「おせち料理」を配膳した。
おせち料理配膳(12/31実施)による見守り活動は今年度で終了することを支部社協連絡会で説明し、配膳時に対象者への周知を行った。

④福祉学習推進事業

○福祉学習推進校指定事業.....市内全小・中・高校、特別支援学校 32校

市内の小学校、中学校、高等学校および特別支援学校を福祉学習推進校に指定し、福祉や人に関心を持ち、自ら行動する人々が増えることをめざし福祉学習を推進した。

○福祉学習推進指定事業.....23事業 助成額 1,539,533円
(前年度対比-3事業・+244,683円)

○赤い羽根募金への協力.....420,292円
(前年度対比-57,947円)

学校募金運動 福祉学習推進校の児童・生徒からの募金額

○福祉学習推進連絡会の開催

コロナ禍のため連絡会を中止し、福祉学習についての実態調査と今後の事業展開の参考としてアンケートを実施した。

○ボランティアサマースクール

福祉学習推進校の小学4年生から高校3年制を対象に、ボランティアについて考えるきっかけづくりとして開催した。令和3年度はコロナ禍のため動画配信型（関市社協 YouTube チャンネル）として2か月間配信した。

① ボランティアとは

動画『ボランティアってなに？～ボランティアをする目的～』

② 地域のボランティア

小・中学生向け 動画 (1)『認知症（にんちしょう）とボランティア』

高校生向け 動画 (2)『手話・点訳とボランティア』

⑤ボランティアセンター事業

○ボランティア・市民活動団体の事業への助成.....4団体 272,787円

- ・関おもちゃ病院「おもちゃ修理」 (前年度対比+1団体・+67,028円)
- ・オリーブの会「仲間（精神疾患の当事者）とのウォーキング」
「精神疾患の当事者・家族の交流会」
- ・いちょうの会「地域住民の居場所づくり事業」
- ・レンゲの会 「フレイル予防事業」

○関市ボランティア・市民活動連絡協議会の活動支援.....218,202円

(前年度対比+89,395円)

ボランティア団体等の繋がりや連携を目的に、14団体が加盟し、運営や助成により活動を支援した。

○ボランティア登録(個人、団体)の状況.....

《新規登録および合計》

個人登録 新規：10人 現登録者数合計 323人 (前年度対比+5人)

団体登録 新規：1団体 現登録団体数合計 95団体 (前年度対比±0団体)

○ボランティア保険加入の促進.....加入者数 2,158人

(前年度対比+570人)

⑥各種団体等育成事業

7団体 836,248円

(前年度対比-282,752円)

○福祉団体等事業の助成

- ・民生委員児童委員協議会
- ・身体障害者福祉協会
- ・老人クラブ連合会
- ・せき市保育会
- ・関美濃保護区保護司会
- ・中央親子教室親の会あゆみ
- ・中農わかば会

(2)共同募金配分金事業

①社協だより ささえ愛の発行 2,379,100円

市民の関心が高い福祉情報、身近な情報提供や募集記事を掲載し読んでもらえる紙面づくりに努めた。また、地域で活躍する人を紹介する「地域でかがやく元気人！」コーナーを継続して掲載した。

○年6回発行 1回あたり29,100部発行

○広告掲載 延23社

②歳末たすけあい配分金 1,464,000円

(前年度対比-4,231,924円)

○おせち料理配膳事業(再掲) 976食 [1食 1,500円] 1,464,000円

・歳末ふれあい事業は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため募集を中止した。

3. 補助金・受託金事業

(1)関市の補助金による事業

①関市民健康福祉大会 補助金 800,000円

(総事業費810,000円 前年度対比-1,000円)

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催を中止とし、被表彰者へは賞状を郵送した。代替となる事業として、地域共生社会の実現に向けた取り組みを動画配信により紹介した。

②障がい児・者のつどい事業 補助金 274,776円

(総事業費276,776円 前年度対比+274,776円)

○障がい者のつどい 1回開催 4組8人参加

関鍛冶伝承館での体験やフラワーライトボックス作成など短時間で開催した。

③ふれあい・いきいきサロン事業 補助金 1,042,796円

(前年度対比+644,412円)

15支部社協が、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し開催した。

○令和3年度開催実績 15支部・46会場・256回・延参加者数4,289人

○令和2年度開催実績 15支部・43会場・164回・延参加者数2,197人

(前年度対比 +3会場・+92回・延参加者数+2,092人)

(2) 関市の指定管理・受託事業

① ボランティア養成講座

受託金 1,523,932円

(前年度対比+1,015,432円)

手話や点訳の初心者を対象とした講座を開催し、障害のある人への理解を深め、簡単な手話の表現技術や点訳の技術を習得し、コミュニケーションする楽しさや文章の翻訳方法を学ぶために開催した。

○手話奉仕員養成講座(入門課程) 全24回 受講者11人(内修了者9人)

○点訳奉仕員養成講座 全15回 受講者1人(内修了者1人)

② 生活困窮者自立支援事業(自立相談支援事業、家計改善支援事業、就労準備支援事業)

受託金 33,000,000円

(前年度対比+5,000,000円)

生活に困りごとや不安を抱えている方からの相談に応じ、家計改善支援事業や就労準備支援事業を利用しながら自立に向けた支援を実践した。

○新規相談件数 241件

○プラン件数(自立・家計・就労準備) ※延べ件数

・自立相談支援(新規:54件・再:86件・終結52件)

・家計相談支援(新規:27件・再:31件・終結14件)

・就労準備支援(新規:4件・再:8件・終結4件)

○支援件数 ※実件数

・全件数(プラン無支援含む)466件・終結176件

(内訳)

今年度新規ケース:241件・終結117件

過年度継続ケース:225件・終結59件

○相談経路(プラン無支援者含む) 合計466件

※実件数

経路	本人	家族	行政				その他
			障がい	子ども	高齢	その他	
件数	218	27	10	21	3	41	
経路	民協	包括	社協	障害 相談機関	医療	保健 センター	その他
件数	40	19	51	8	3	5	20

③多機関の協働による包括的支援体制構築事業 受託金 12,000,000円

(前年度対比±0円)

世帯全体の複合化・複雑化した支援困難ケースの解決に向け、多機関との連携ネットワーク構築やケースのマネジメントを行うとともに、全世代対応型の「断らない相談支援」ができるよう包括的・重層的な相談支援体制の整備に行政と協働して取り組んだ。

- 困難ケースのマネジメント 相談受付件数 910件
- 包括的・重層的な相談支援体制の構築
 - ・会議開催 75回（相談支援包括化推進会議・支援会議・権利擁護ケース会議 外）
 - ・研修の参加・開催 13回（生活困窮者自立支援事業勉強会・ワークデイバーシティ 外）
- 重層的支援体制整備事業への移行準備事業
 - ・国への報告新規分 123件
 - ・プラン作成 6件
- 権利擁護体制の整備
 - ・成年後見利用促進（相談件数-法定後見・任意後見等：160件/ケース支援件数 19件）

④地域における生活困窮者支援等のための共助の基盤づくり事業

受託金 6,000,000円

(前年度対比±0円)

- 地域の福祉ニーズを把握するためのアンケート調査

民生委員・児童委員、福祉委員、自治会、地域委員会、サロン代表者等に協力を得て行った調査およびグーグルフォームによる全地域調査、サロン代表者や住民等への聞き取りによる福祉ニーズ調査を行った。
- 通いの場の創出と支え合い活動の創出のための協議体づくり

感染予防のための野外サロンの開催や住民（有志）による支え合い活動開始に向けての話し合う場ができた。
- インフォーマル活動の活性化

社会貢献活動に取り組む企業とタイアップしサロンを開催した。また、災害に備えて「災害ボランティア事前登録制度」を導入し、事前の登録に加え潜在している災害ボランティアの人材発掘に取り組んだ。

⑤地域の様々な相談の受け止め・地域づくり事業（新規） 4,000,000円

- 地域住民が主体的に地域生活課題を把握し解決を試みることができる環境整備

CSWが全16支部に対し、地域ふくし懇談会の開催支援と協議体づくりへの働きかけを行うことで、今後の具体的な地域福祉活動に繋がる環境整備を行った。
- 地域住民の地域生活課題に関する相談を包括的に受け止める体制整備

地域ふくし懇談会において確認された地域課題に対して、地域で支え合う必要性も認識され、小地域での“つながりづくり”の意識付けができた。

⑥参加支援事業（新規）**受託金 3,000,000円**

○社会とのつながりをつくるための支援

市内の企業・団体・個人へ働きかけ 43 団体が参加支援事業に登録された。

○利用者ニーズを踏まえた丁寧なマッチングとメニューづくり

生活困窮者自立支援事業や多機関協働事業と連携し、支援対象者 4 人に対し 3 人の支援プランを作成し、マッチングを 12 件行った。

⑦介護者支援事業**受託金 485,000円**

(前年度対比+269人・-2,000円)

○地域の介護者のつどい.....6か所...延12回...延208人

各地域包括支援センター単位で介護者の抱える悩みや不安が少しでも軽減できるよう、介護者のリフレッシュや情報交換など交流会をメインに地域包括支援センターや民生委員児童委員、支部社協と連携して開催した。

地域	回数・延参加者数
第1地域（安桜・倉知）	2回・63人
第2地域（旭ヶ丘・下有知）	2回・27人
第3地域（瀬尻・広見・千疋・小金田・保戸島）	2回・30人
第4地域（富岡・田原・桜ヶ丘）	2回・45人
西地域（洞戸・板取・武芸川）	2回・26人
東地域（富野・武儀・上之保）	2回・17人

○関市全域を対象とした介護者のつどい.....延6回...延94人

関市全域を対象として、講師を招いた講義や講演会を総合福祉会館で開催した。

⑧老人福祉センター事業**指定管理料 39,663,000円**

(前年度対比-61,000円)

新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、健康増進、レクリエーション、趣味活動の場として提供した。

	わかくさ	洞戸	上之保	合計	前年度対比
開所日数	313	242	242	797	+112日
延利用人数	13,054	4,093	1,702	18,849	+2120人
入浴利用可能日数	313	—	—	313	+58日
延入浴利用人数	4,224	—	—	4,224	+579人

⑨介護予防ロコトレ事業**受託金 6,540,000円**

(前年度対比-2,265,000円)

65歳以上の高齢者に対して、身体機能の維持または向上を図り、要介護状態へ移行することを予防するため 13 か所のセンターにおいて介護予防事業を実施した。

(単位：人)

わかくさ	洞戸	板取	武芸川	武儀	上之保	ふれあいセンター	合計
3,530	488	216	862	299	487	1,649	7,531

(前年度対比+2,790人)

⑩移動支援事業

受託金 563,160円

実利用人数5人 延派遣回数112回 延派遣時間数161時間

(前年度対比+1人・-4回・-23時間)

障がい者宅等にホームヘルパーを派遣し、障がい者の移動支援サービスを提供し、自立生活を支援した。

⑪関市中央第1地域包括支援センター事業

受託金 20,790,000円

(前年度対比±0円)

【介護予防ケアマネジメント業務】

○介護予防プラン作成 包括担当分1,249件 ・ 委託分1,271件

○一次予防教室

- ・ハッピーフィールド 年2回 延74人
- ・安桜ふれあいセンターロコトレ講座自主化支援（トミーズ） 年1回 延15人
- ・こまめ会（毎月第2月曜日） 年11回 延86人
- ・出前講座 24回開催 延319人

【総合相談支援業務】 計2,841件

○年間相談受付件数 訪問延100件、電話延2,200件、来所延399件、その他142件

○年間訪問業務件数 延1,460件

【権利擁護業務】

○高齢者虐待防止 相談受付件数 延104件

○権利擁護 相談受付件数 延118件

【包括的・継続的ケアマネジメント業務】

○日常的個別相談・支援

- ・相談受付件数（ケアマネ支援） 延161件
- ・訪問業務件数（ケアマネ支援） 延12件

○支援困難ケース等への助言・支援

- ・相談受付件数（ケアマネ支援） 延293件
- ・訪問業務件数（ケアマネ支援） 延33件

○包括的・継続的なケア体制の構築

- ・地域ケア個別会議の開催 24回開催
- ・サービス担当者会議への出席 42回

【多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築】

地域ケア会議を通して、個別課題の把握・検討から地域課題を解決していくための人材育成やネットワークづくりを行った。

- ・地域ケア連絡会議の開催 安桜地区4回、倉知地区4回
- ・地域ケア個別会議開催 24回
- ・地域ケア支援会議の開催 安桜地区1回、倉知地区1回

⑫身近な相談支援事業 **受託金 1,500,000円**
(前年度対比±0円)

子ども・障がい・生活困窮の分野を超えた全世代型の相談窓口として、子ども5件、障がい者52件、生活困窮者56件の相談支援を行った。個々のケースに応じて関係機関と連携し迅速な対応を行った。

⑬障がい者サロン事業 **受託金 1,454,921円**
(前年度対比+690,860円)

○毎月2回開催...延べ参加者数...116人

軽体操や手作業による作品づくりを行った。聴覚障がい者から手話を習うなど交流の場となった。

⑭新型コロナウイルス感染症生活困窮者支援相談事業(新規) **受託金 1,760,000円**

○支援金に係る申請の相談、受付、受給期間中の相談と就労支援を行った。

- ・申請受付 初回 53件・再支給 26件・アウトリーチ(電話)による確認
- ・相談対応 初回 132件・再支給 55件
- ・就労支援 ハローワークと連携し必要に応じて同行支援を行った

(3) 県社協の補助金・受託金事業および自主事業

①日常生活自立支援事業 **46件 受託金 3,658,000円**
(前年度対比+1件・+137,000円)

認知症や知的障がい、精神障がいなどで、日常生活に不安がある人が、地域で安心して自立生活を送ることを支援するため、福祉サービス利用援助や、日常的な金銭管理等サービスを提供する事業を、岐阜県社会福祉協議会から受託して実施した。

②成年後見制度利用促進事業 **受託金 2,117,000円**
(前年度対比±0円)

○成年後見制度利用に係る相談件数 延 12件

③生活福祉資金貸付事業 **受託金 2,102,000円**
(前年度対比±0円)

④コロナ特例貸付事務 **受託金 2,419,800円**
(前年度対比-1,576,200円)

[市社協資金]

○小口緊急貸付金 相談件数 15件 申込件数 2件 貸付決定 2件

[県社協資金]

○生活福祉資金貸付 相談件数 102件 申込件数 5件 貸付決定 4件

○コロナ特例貸付

・緊急小口資金 相談件数 206件 申込件数 125件 貸付決定 119件

・総合支援資金 相談件数 326件 申込件数 178件 貸付決定 174件

⑤法人後見センター事業（自主事業） 報酬 3,212,000円

○法人後見事業運営委員会 5回開催（4/30・7/19・9/15・12/21・2/28）

受任者 17人 類型 後見 13人 保佐 4人（新規7人）

⑥生活困窮者支援金事業（新規自主事業） 44件 660,000円

生活が困窮状態等に陥った際の一時金として1世帯15,000円（年1回限る）を支給し、支給時等の面談により生活状況を聞き取り生活支援を行った。

4. 介護保険・障害福祉サービス事業

(1) 居宅介護支援事業（居宅介護サービス計画の作成）

介護保険制度下における指定事業所として2か所の居宅介護支援事業所を経営し、利用者の自立支援にふさわしい利用者本位の福祉サービス利用を支援した。

人員体制の見直しおよび要介護認定調査の件数が増えたことにより、年間約400万円の収入増となった。

○事業所全体の職員体制 (R4.3月末現在)

管理者	2人	前年度対比 -1人
主任介護支援専門員	1人	前年度対比 ±0人
介護支援専門員	7人	前年度対比 ±0人

○実績 (R4.3月末現在)

ケアプラン作成	2,225件	前年度対比 -175件
介護予防プラン作成	279件	前年度対比 -134件
要介護認定調査	260件	前年度対比 +144件

(2) 訪問介護事業

介護保険制度下における指定事業者として「わかくさ介護ステーション」が、指定訪問介護、介護予防・日常生活支援総合事業および指定第1号訪問事業の適正運営を行うとともに、市全域により質の高いサービスの提供に努めた。

○職員体制 (R4.3月末現在)

管理者（兼務）	1人	前年度対比 ±0人
サービス提供責任者兼常勤ヘルパー	2人	前年度対比 ±0人
非常勤ヘルパー	9人	前年度対比 +2人
事務職	1人	前年度対比 ±0人

○介護実績

延利用人数	200人	前年度対比 +4人
延派遣回数	2,301回	前年度対比 -173回
延派遣時間数	1,930.25時間	前年度対比 -183.5時間

○介護予防実績

延利用人数	283人	前年度対比 -19人
延派遣回数	1,901回	前年度対比 -182回
延派遣時間数	1,901時間	前年度対比 -182時間

(3) 障害福祉サービス事業

障害者総合支援法の下「わかくさ介護ステーション」が県より居宅介護、重度訪問介護および同行援護の事業者指定を受け、支給決定を受けた障がい者に対して、サービスを提供した。
○実績

利用者数	32人	前年度対比 +6人
知的	270回	前年度対比 +51回
身体	1,012回	前年度対比 -99回
精神	526回	前年度対比 -223回
同行援護	255回	前年度対比 +179回

(4) 介護・相談

介護相談.....108件
(前年度対比+48件)



STOP 新型コロナウイルス